

令和4年度第1四半期連結決算概要

令和4年7月27日
東海旅客鉄道株式会社

- ・新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、東海道新幹線・在来線ともにご利用が増加したことなどから、**連結営業収益は前年と比べ増加**。
- ・営業費は、当社の物件費やグループ会社における売上原価の増等により増加したが、**各利益は黒字に転換**。
- ・通期の業績予想については、**前回予想を据え置く**。引き続き、安全・安定輸送の確保を最優先に輸送機関としての使命を果たしつつ、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営状況から脱却すべく、種々の取組みにより収益の拡大に取り組むほか、「業務改革」を強力に推進し、経営体力の再強化を図る。

1. 連結損益の概要

(1) 営業収益 3,093億円（対前年同期+1,287億円、71.3%増）

- ・当社の**運輸収入は、対前年同期1,132億円（92.4%）増の2,358億円**。
 - ・東海道新幹線については、「のぞみ12本ダイヤ」を活用して、需要にあわせた弾力的な列車設定を行うなど、輸送サービスの充実に取り組んだ。また、「ずらし旅」や「推し旅アップデート」の展開等、魅力ある旅行商品等を販売したほか、奈良にスポットをあてた新たな観光キャンペーン「いざいざ奈良」を開始した。さらに、一時的な打ち合わせやWeb会議等にご利用いただける個室タイプの「ビジネスブース」を一部のN700S車内に試験的に導入するなど、車内や駅のビジネス環境の整備に取り組んだ。
 - ・在来線については、「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、需要にあわせ弾力的に増発や増結を行い、ご利用の拡大に努めた。
 - ・上記の結果、東海道新幹線の運輸収入は対前年同期1,089億円（102.1%）増の2,156億円、在来線の運輸収入は対前年同期43億円（27.3%）増の201億円となった。
- ・鉄道以外の事業においては、JRセントラルタワーズと開業5周年を迎えたJRゲートタワーを一体的に運営し、顧客ニーズを捉えた営業施策を展開するなど収益の拡大を図った結果、グループ全体でも増収。

(2) 営業費 2,258億円（対前年同期+198億円、9.6%増）**(3) 営業利益 835億円（対前年同期+1,088億円）****(4) 営業外損益 △167億円（対前年同期△18億円）****(5) 経常利益 668億円（対前年同期+1,070億円）****(6) 親会社株主に帰属する四半期純利益 470億円（対前年同期+754億円）**

2. 令和4年度の業績予想

- ・通期の業績予想については、前回予想を据え置く。

※ 金額は単位未満端数切捨（補足説明資料2以降についても同じ）

比較第1四半期損益計算書【連結】

(単位 億円、%)

科 目	令和3年度	令和4年度	増 減	前期比
営 業 収 益	1,806	3,093	1,287	171.3
運 輸 業	1,334	2,486	1,151	186.3
流 通 業	199	295	95	147.6
不 動 産 業	92	105	13	114.4
そ の 他	179	206	26	114.9
営 業 費	2,059	2,258	198	109.6
営 業 損 益	△ 253	835	1,088	—
営 業 外 損 益	△ 148	△ 167	△ 18	112.2
営 業 外 収 益	58	40	△ 18	68.6
営 業 外 費 用	207	207	△ 0	99.9
経 常 損 益	△ 401	668	1,070	—
特 別 損 益	22	△ 2	△ 24	—
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 損 益	△ 379	666	1,046	—
法 人 税 等	△ 97	190	288	—
四 半 期 純 損 益	△ 281	476	757	—
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 四 半 期 純 損 益	2	6	3	234.6
親会社株主に帰属する四半期純損益	△ 284	470	754	—
四 半 期 包 括 利 益	△ 331	445	777	—

(注) 営業収益の内訳は、セグメント別の外部顧客への売上高

比較第1四半期損益計算書【単体】

(単位 億円、%)

科 目	令和3年度	令和4年度	増 減	前期比
営 業 収 益	1,379	2,534	1,155	183.8
運 輸 収 入	1,225	2,358	1,132	192.4
そ の 他 の 収 入	153	175	22	114.7
営 業 費	1,597	1,738	141	108.8
人 件 費	437	440	3	100.7
物 件 費	623	720	96	115.5
租 税 公 課	91	97	6	106.7
減 価 償 却 費	445	481	35	108.0
営 業 損 益	△ 218	795	1,014	—
営 業 外 損 益	△ 163	△ 172	△ 9	105.6
営 業 外 収 益	45	35	△ 9	79.5
営 業 外 費 用	208	208	△ 0	100.0
経 常 損 益	△ 382	622	1,004	—
特 別 損 益	17	△ 0	△ 17	—
税 引 前 四 半 期 純 損 益	△ 364	622	987	—
法 人 税 等	△ 101	187	288	—
四 半 期 純 損 益	△ 263	435	698	—

輸送人キロおよび運輸収入の比較（第1四半期）

(単位 百万人キロ、億円、%)

			令和3年度	令和4年度	増減	前期比
輸送人キロ	新幹線	定期	255	277	22	108.7
		定期外	4,221	8,935	4,714	211.7
		合計	4,476	9,212	4,736	205.8
	在来線	定期	1,247	1,254	7	100.6
		定期外	434	672	238	155.0
		合計	1,680	1,926	246	114.6
	合計	定期	1,502	1,531	30	102.0
		定期外	4,655	9,607	4,952	206.4
		合計	6,157	11,138	4,982	180.9
	運輸収入	新幹線	定期	30	32	2
定期外			1,036	2,123	1,087	(69.0) 204.9
合計			1,067	2,156	1,089	(69.0) 202.1
在来線		定期	76	77	0	(85.6) 100.7
		定期外	81	124	42	(72.0) 152.4
		合計	158	201	43	(76.7) 127.3
合計		定期	107	110	2	(80.6) 102.4
		定期外	1,118	2,248	1,130	(69.2) 201.1
		合計	1,225	2,358	1,132	(69.6) 192.4
合計 (小荷物含む)		1,225	2,358	1,132	(69.6) 192.4	

- (注) 1. 当社単体に係る輸送人キロおよび運輸収入を記載
 2. 輸送人キロは単位未満端数四捨五入
 3. 前期比欄の()内は、平成30年度との比較を記載

比較第1四半期貸借対照表【連結】

(単位 億円)

科 目	令和3年度 期 末	令和4年度 第1四半期末	増 減
流 動 資 産	26,827	26,370	△ 457
うち 中央新幹線建設資金管理信託	18,130	16,982	△ 1,148
固 定 資 産	67,677	67,668	△ 8
有 形 ・ 無 形 固 定 資 産	55,497	55,777	280
投 資 そ の 他 の 資 産	12,180	11,891	△ 288
資 産 合 計	94,505	94,039	△ 465
流 動 負 債	7,373	6,586	△ 787
固 定 負 債	51,039	51,044	5
負 債 合 計	58,412	57,630	△ 781
純 資 産 合 計	36,092	36,408	316
負 債 純 資 産 合 計	94,505	94,039	△ 465
(再掲) 長期債務	49,416	49,517	100
中央新幹線建設長期借入金	30,000	30,000	-
社 債	8,907	9,007	100
長 期 借 入 金	5,244	5,244	-
鉄道施設購入長期未払金	5,265	5,265	-

参考:比較第1四半期セグメント別営業損益

(単位 億円、%)

科 目		令和3年度	令和4年度	増 減	前期比
営 業 収 益	運 輸 業	1,357	2,510	1,153	185.0
	流 通 業	220	314	94	142.7
	不 動 産 業	167	183	15	109.4
	そ の 他	436	503	67	115.5
	調 整 額	△ 374	△ 418	△ 43	111.7
	計	1,806	3,093	1,287	171.3
セグメント損益 (営 業 損 益)	運 輸 業	△ 238	773	1,012	-
	流 通 業	△ 23	13	37	-
	不 動 産 業	41	50	8	120.8
	そ の 他	△ 28	△ 0	28	1.5
	調 整 額	△ 3	△ 1	1	59.1
	計	△ 253	835	1,088	-

- (注) 1. セグメント別の営業収益は、外部顧客への売上高のほか、他セグメントへの売上高を含む
2. 「調整額」欄は、セグメント間取引の相殺消去